

伊藤ハムグループCSR報告書

2016



会社概要／編集方針	2
トップコミットメント	3



活動ハイライト① 価値ある商品開発	5
-------------------------	---



「伊藤ハム・クリエーションラボ」開設



活動ハイライト② 日本ユニセフの活動を支援	7
-----------------------------	---



「子ども未来プロジェクト」を実施



活動ハイライト③ 地域社会貢献	9
-----------------------	---



地域との連携でもっと必要とされる企業に



活動ハイライト④ 女性活躍推進	11
-----------------------	----



女性がよりいきいきと活躍する社会になるために



活動ハイライト⑤ お客様満足を目指して	13
---------------------------	----



お客様の要望にこたえる 提案型のプロフェッショナルの育成



会社概要 2016年3月現在

会 社 名 伊藤ハム株式会社
 設 立 1948年(昭和23年)
 創 業 1928年(昭和3年)
 本 社 事 務 所 兵庫県西宮市高畑町4番27号
 代 表 者 代表取締役社長 柴山 育朗
 資 本 金 284億2,700万円
 売上高 4,516億4,300万円

連結対象会社 連結子会社 49社
 持分法適用関連会社 13社
 従 業 員 数 1,747人(連結:5,794人)
 主 な 事 業 ●食肉加工品の製造および販売
 ●食肉の加工および販売
 ●調理加工食品、惣菜類の製造
 および販売など

編集方針

本報告書は、ステークホルダーの皆様に伊藤ハムグループのCSR活動(社会的活動および環境保全活動)をわかりやすくお伝えすることを目的に、2015年度(2015年4月1日から2016年3月31日)の活動の中で特に重要性の高い事項を中心に編集いたしました。

本報告書に掲載できなかった、活動の詳細や、サイトごとの詳細データなどについては、HTML版として当社ホームページ上で公開しています。

また、本報告書はホームページのみで開示しており、冊子の発行はしていません。

- 伊藤ハムホームページ
<http://www.itoham.co.jp>

● 報告対象組織

基本的には伊藤ハムグループの取り組みを報告していますが、一部の報告では伊藤ハム株式会社、もしくは当社およびグループの生産工場に限定している場合もあります。



● 報告対象分野

伊藤ハムグループが取り組みを行う社会的活動および環境保全活動

● 対象期間

基本的には2015年度(2015年4月1日から2016年3月31日)の取り組みを報告していますが、一部では2015年度以前、以降についても報告しています。



朝のフレッシュ
ロースハム



ポークビッツ



グランドアルトバイエルン



伝承ギフト

「食」を担う企業として社会から 信頼される企業であり続けるために

はじめに

当社グループは、1928年の創業以来「事業を通じて社会に奉仕する」の社是のもと、皆様の健康にとって大切な動物性タンパク質である食肉や食肉加工品をお届けすることによって、食生活の向上に貢献してまいりました。

価値ある商品・サービスの提供を通して、「食べること」の喜びや楽しさを伝えていくことがグループの使命であると認識し、コンプライアンス体制の充実、経営品質の向上、地球環境への配慮、社会貢献活動など、積極的に推進しています。そして、こうした取り組みを通して、企業としての社会的責任(CSR)を十分に果たし、「食」を担う企業として社会から信頼される企業であり続けたいと考えています。

事業環境の変化に迅速かつ適切に対応するために

当社グループを取り巻く環境に目を向けると、国内では、人口動態・社会構造の変化に起因する一世帯人数の減少、共働き世帯の増加による消費行動の変化が見られます。さらに、グローバルな視点では原料調達から最終消費までのサプライチェーンに対して大きな変化が起きています。当社はこのような事業環境の変化に迅速かつ適切に対応する力が求められています。

こうした中、2016年4月1日から、当社と米久株式会社は経営統合し、持株会社である伊藤ハム米久ホールディングス株式会社が発足しました。今後は、これまで培ってきた互いの強みを持ち寄ることで統合の効果を最大限に発揮し、価値観を共有することで心をひとつにして、目まぐるしい事業環境の変化にも対応できる強いグループとなり、より大きく社会に貢献することを目指していきます。

コーポレートガバナンスの強化と コンプライアンス推進のための風土の醸成

当社グループでは、監督・監視など内部統制機能を充実させ、的確な経営の意思決定とスピーディな業務執行を行うとともに、コーポレートガバナンスの強化による透明性の高い経営を目指しています。

特にコンプライアンスの推進にあたっては、社長を議長とし、各事業部門長から構成される「コンプライアンス責任者会議」を頂点とする推進体制に加えて、「コンプライアンス委員制度」や「リーガルリスクマネジメント」を運用するなど、さまざまな施策を実施しています。

中でも「コンプライアンス委員制度」は職場の業務に根付いたコンプライアンスの推進と定着を目的としており、当社グループの特長的な取り組みといえます。2016年度はグループ全体で276名が委員に任命され、全国の職場で活動を推進しています。

また、CSRの取り組みを推進するためには、組織の風通しを良くし、従業員が会社に誇りを持ち、安心して働ける風土づくりも重要であると考えています。

2016年度で15回目となるコンプライアンス意識調査もその一環です。これまでの調査結果を深く分析・理解し、問題点への迅速な対処はもちろん、その結果を従業員にフィードバックするようにしています。こうした取り組みによって従業員の経営・組織に対する信頼感が醸成され、組織へのロイヤリティが高まり、ひいては、コンプライアンスを最重要視した職場風土の醸成につながるものと確信しています。

そして、これらの取り組みを支える中核としてCSR本部があり、各部門・グループ各社と連携して体制や制度の維持・向上に努めています。

食の安全・安心をお届けするために

透明性の高い経営、高い倫理意識とコンプライアンス推進の風土、こうした基礎が確立されたうえで、食品会社として最も重要なCSRは、お客様においしく、安全な製品を安心してお召し上がりいただくことです。品質管理を徹底することの重要性は言うまでもなく、当社グループでは、各生産現場・流通段階における管理、検査、点検を徹底するとともに、CSR本部が主体となる監査、点検も継続的かつ網羅的に実施しています。

「地球環境への配慮」と「社会との共生」を テーマにした社会貢献活動

当社グループは、良き企業市民として、「地球環境への配慮」と「社会との共生」をテーマにして、社会貢献活動を推進しています。

全国の事業所周辺の清掃活動には、毎年数多くの従業員が自発的に参加しています。また、神戸市と包括連携協定を結び、市民・行政・企業が協働して森林保全活動を行う「こうべ森の学校」を支援するとともに、東京・八王子市の「高尾の森づくりの会」の活動にも参加し、間伐・植樹作業を実施するなど、自然環境保護活動も継続して取り組んでいます。

また、開発途上国の子どもたちを支援するユニセフの趣旨に賛同し、2008年から「タンザニア支援プロジェクト」として栄養事業を支援してまいりました。そして、2015年度から、アジアの子どもたちに教育の機会を提供するユニセフの活動を支援する「子ども未来プロジェクト」を開始しました。

これらの取り組みは、当社製品の販売数量に応じた寄付を行うもので、皆様のあたたかいご支援により、2008年からの7年間で寄付金の総額は1億円を超えました。今後も世界の子どもたちの命と健やかな成長を守るために活動しているユニセフへの支援を継続していきます。

一方、「食育活動」は食品企業ならではの社会貢献活動であり、さまざまな「食育活動」を通じて、食べることの喜びや楽しさ、大切さ、家族そろっての食事の大切さをしっかりと伝えていきます。

環境負荷を低減するために

継続的な環境保全と自然との調和・共生、地球環境に配慮した事業活動は、当社グループが企業の社会的責任を果たす基本姿勢と位置づけています。こうした考えのもと、省エネルギー・省資源の推進、廃棄物の削減とリサイクルの推進、温室効果ガスの排出量削減など、さまざまな環境負荷低減活動に取り組んでいます。

2015年度は高効率タイプの冷凍機への更新、変圧器の更新、LED照明への切り替えなどを実施し、CO₂排出量の削減に努めました。

代表取締役社長
柴山 育朗

人材力を強化するために

「企業は人なり」という言葉を引用するまでもなく、企業にとって「人材」が重要であることはもちろん、従業員の成長なくして、企業の成長は望めません。「従業員一人ひとりの成長の総和が、当社グループが未来に向けて持続的に成長できる企業体になる基盤」と考えています。

さらには、従業員がやりがいを持っていきいきと働き、何がベストであるかを考えて、勇気を出して変革できる力を最大限に発揮できこそ、CSRの確かな実践、さらなる深化につながるものと考えます。

このような考え方にのっとり、引き続き、従業員一人ひとりが特性を存分に活かして活躍できる環境の整備に努めていきます。

社会から信頼される企業であり続けるために

当社グループが真に社会から信頼される企業であり続けるために、今後もさまざまな課題にチャレンジし、持続的成長と企業価値のさらなる向上を目指していきます。

これらの活動につきましては、今後ともこの「CSR報告書」を通して開示していきます。当社グループの活動に対するステークホルダーの皆様のご理解と、皆様からの忌憚のないご意見・ご鞭撻を賜れば幸甚に存じます。

2016年9月





「伊藤ハム・クリエーションラボ」開設

2015年4月、伊藤ハム・クリエーションラボ(ICL)を新たに開設しました。

ICLはスーパー、コンビニなどのお得意先様にとって便利な場所で、当社の企画・営業・生産の中枢がある東京都の目黒事務所に設置しました。その立地条件を生かして、お得意先様との共創(Co-Creation)により価値ある商品提案をスピードよく行うことを目的としています。

伊藤ハム・クリエーションラボ Itoham Creation Lab(ICL)

価値共創 Co-creation

試作・試食を行い
価値共創

お客様 Customer

お客様(お得意先様)の
課題をヒアリング

新機軸 Innovation

新機軸(イノベーション)
となる製法を提案

協力 Partnership

企画、営業、生産の
各部署が案を出し協力

解決 Solution

製造工程など
課題解決

応える スピードあるレスポンス

お客様からいただいた課題に応えるサンプル作成は、ICLにて試作を行います。できたサンプルをすぐにプレゼンルームで確認していただくことや調整することができ、レスポンスよく商品イメージを掴んでいただくことができます。



ICLでの試作

考える 企画、営業、生産担当者とともに考え、たどり着く

当社の企画、営業、生産担当者と開発者が顔をつき合わせて、協力して商品を作り上げていくことで、さまざまなアイデアが飛び出し、魅力的な商品が生まれます。各部署の仕事の理解にもつながり、新たな発見が生まれます。



開発担当者と相談

生み出す さらに期待に応えるために

実際に店頭で商品が並ぶまでに、商品によっては何度もお客様と試行錯誤を行います。その間、毎週ICLに通われて商品を作り上げられたお客様もいらっしゃいます。今後もICLを積極的に活用し、期待に応える価値を共に創り上げていきます。



試作品を隣のプレゼンルームで確認



生地品質にこだわり、開発をすすめました。



ピザガーデン

お客様への
プレゼンテーション

年100回
以上実施



「子ども未来プロジェクト」を実施

「アジアの中で最も信頼される食肉加工メーカーになる」という当社の経営ビジョンに基づき、アジアの子どもたちに教育の機会を提供するユニセフの活動を支援する「子ども未来プロジェクト」を2015年度より新たにスタートすることとなりました。

学ぶ アジアの子どもたちに学校教育を

アジアでは、約1,800万人の学齢期(小学校)の子どもたちが学校に通えない状況となっています。こうした教育の機会を奪われがちなアジアの子どもたちに、教育の機会を提供することを目指すユニセフの「子どもにやさしい学校を広める教育事業」を支援します。



© UNICEF/LaoPDR00941_Holmes

支える タンザニア支援も継続中

2008年からユニセフ・タンザニア事務所が実施する「タンザニア・ザンジバルにおける急性栄養不良対策への総合的アプローチ」事業を支援しています。これまでの8年間で寄付総額は1億円を超えました。



上腕周囲測定テープで赤ちゃんの栄養状態をチェック

つながる 世界中の子どもたちに輝いてほしい

社是である「事業を通じて社会に奉仕する」のもと、食に携わる企業としての社会的責任を果たすべく、世界の子どもたちの命と健やかな成長を守るために活動しているユニセフを支援するため、従業員とともにも貢献していきます。



ユニセフ街頭募金活動「ハンドインハンド」



寄付金贈呈式



ユニセフ立会い募金



ユニセフ立会い募金



©UNICEF/NYHQ2012-1895_Noorani

子ども未来プロジェクトの仕組み

プロジェクトの仕組み

伊藤ハム
対象商品をご購入
いただくと

対象商品

ポークビッツ
(71g、71g×2)



PRIME あらびき
ブルメポークウインナー
(90g、90g×2)

対象商品 1 パックにつき
1 円をユニセフに寄付します。

1円

ユニセフ

「子どもにやさしい学校」を
アジアに広める
ユニセフの教育支援事業に
充てられます。



© UNICEF/LAOA2008-5755_Holmes

寄付金額(年間)

約2,400万円



地域との連携で もっと必要とされる企業に

当社は2013年10月から神戸市と包括連携協定を締結しています。

神戸市灘区が本店所在地であることから、「神戸の皆様に貢献したい」との思いから始めました。

現在も「食育」「防災」「地域活性化」など幅広い分野で連携事業に取り組んでいます。

神戸市との 包括連携協定

六甲山自然環境
保全活動

神戸情報の
発信

食育

防災

災害時の食糧提供

災害発生時に神戸市の要請に基づき、100,000パック(1日10,000パック×10日)のレトルト食品などをすみやかに供給できる体制を整備しています。



教える 子どもから大人までに毎日の食事の大切さを伝える「こうべ食育フェア」

2015年6月13日「こうべ食育フェア」に神戸の企業として参加しました。このフェアではウインナーの飾り切り実演と食育グッズ抽選会のブースを出展し、総勢750名の地域の皆様にご来場いただきました。子どもたちには食の大切さを伝え、保護者の方へは子どもへの食育の重要性を認識してもらうことを目的としています。



ウインナーの飾り切り実演



育てる 六甲山を守る森林保全活動「こうべ森の学校」

神戸市は森林保全活動を進めており、その一環として市民・行政・企業が協働している「こうべ森の学校」を支援しています。活動資金を提供し、従業員ボランティアを派遣しています。2015年は総勢153名の従業員とその家族がボランティアとして参加しました。



神戸市建設局 末永局長より感謝状贈呈

守る 子どもの虐待防止活動「こうべオレンジリボンキャンペーン」

2015年11月8日に神戸市主催の子ども虐待防止活動のイベントに参加しました。このイベントは児童虐待防止のシンボルマークであるオレンジリボンの周知、市民へ児童虐待の防止や早期発見の呼びかけを目的に開催されています。当社ブース内には約250名の親子が抽選を楽しめました。



食育グッズ抽選会

イベント参加総人数
およそ

1,150名



女性がよりいきいきと活躍する社会になるために

当社は、育児や介護など、社員それぞれの条件に関わらず、一人ひとりが働きがいを感じながら働くことができ、能力を十二分に発揮できる職場環境を実現するべく、多様な両立支援制度を設け、運用しています。

また、女性がよりいきいきと活躍する社会となるための一助になりたいという思いから、社内での取り組みのみならず、社外に向けても積極的に活動を広げ、働く女性や女子学生を応援しています。

伝える 神戸親和女子大学で講義

2015年6月10日、神戸親和女子大学で開催された「企業人による職業講話」に講師として参加しました。約300名の学生に対して、女性を取り巻く環境変化、講師本人の実体験などをお伝えし、将来のキャリアを考えるきっかけ作りのお手伝いをしました。



企業人による職業講話

語り合う 女性の活躍を考える公開座談会に参加

2015年9月9日、兵庫県立男女共同参画センターで開催された座談会に参加し、女性の活躍をテーマに体験談や思いを語り合いました。座談会には約50名が参加し、ディスカッションを通じて女性が社会でいきいきと活躍するために何が必要かを考えました。



座談会

作り上げる 女子高生とともに

茨城県取手市にある聖徳大学附属取手聖徳女子高等学校の特別教育課程「商品開発プログラム」に当社社員が外部講師として参加しました。生徒は「女子高生のお弁当」をテーマに商品開発業務を疑似体験し、先輩社会人の女性との交流を通して、自らの将来像を作り上げるきっかけとなりました。



授業の様子

仕事と育児の 両立支援制度

産前産後休業

出産予定日前8週間～
産後8週間

育児休業

子どもが満1歳になるまで。
ただし、認可保育所に入ることが
できない等の場合は、
満2歳まで取得可能

育児短時間 勤務制度

小学校3年生修了まで

家族ケア休暇

中学校就学前の子の
看護等のために、
年10日を付与

ジョブリターン制度

結婚、出産、育児、
配偶者転勤の理由により
退職した女性社員の
再入社制度

社員の声

子どもが1歳の時点で保育園に入ることができず、悩みましたが、当社ではそのような場合に2歳まで育児休業を取得でき、とてもありがたく感じました。また、復帰後も、モチベーションが上がり、スキルアップできるような環境で仕事ができおり、以前よりも一層、働くことの楽しさや大切さを日々感じられています。

加工食品事業本部 生産本部 技術部 品質管理2課

石上 笑理



制度利用者数
(2015年度の延べ人数)

194人





お客様の要望にこたえる

お客様相談室において、お客様の声に真摯に耳を傾けることはもとより、生産工場においても、商品に関するさまざまな質問に、誠実かつ迅速に対応できるように、お客様サービス担当のさらなるスキルアップを行いました。

傾聴する お客様の声に真摯な姿勢で

商品の特徴、食べ方、調理法、商品の保存に関すること、商品の栄養成分やアレルギー物質に関することなどさまざまなご質問が日々お客様相談室に寄せられます。お寄せいただいたご質問・ご意見を大切な資産として受け止め、真摯に耳を傾けるとともにわかりやすい情報提供を心がけています。



電話対応の様子

共有する お客様に「安心」を感じていただくために

お客様相談室と生産工場のお客様サービス担当者が一堂に集い、お客様からどのような声をいただいているか、お客様対応のプロフェッショナルとしてどのように対応すべきかなど、情報共有するとともに、「誠実かつ迅速な対応」の重要性を再認識し、お客様にいつも「安心」と感じていただける製品づくり・サービスの向上に努めています。



会議での対応トレーニングの様子



会議出席者一同

お客様相談室に
寄せられた声
年10,000件

提案型のプロフェッショナルの育成

伊藤ハムフードソリューションの取り組み

(全国の主要百貨店などで、ハム・ソーセージや食肉・食肉加工品・惣菜・サラダなどを販売するグループ会社)

お客様にお肉をよりおいしく食べていただき、喜んでいただくために店頭でメニューを提案する肉のプロフェッショナル「ミートコンシェルジュ」が登場しました。

伝える 「食べる喜び」を積極的に発信する

「お肉検定2級」の有資格者を前提として、社内で食肉研修、座学などのカリキュラムを受けた従業員を「ミートコンシェルジュ」に任命しています。

お客様との会話を通じて、お肉に関する知識や食べる喜びを伝えていきます。



提案する ミートコンシェルジュという仕事

お客様との会話を大切にし、ご希望のお肉を購入いただくとともに、家庭でお肉を召し上がって幸せを感じていただけるように、おいしい食べ方や調理方法をご提案しています。



ミートコンシェルジュの
人数

12人

(2014年9月から育成をはじめ
2016年3月末現在)



ミートコンシェルジュは
腕章をつけています。

CSRサイトのご案内

「CSR活動について社内外へ情報発信することは企業の果たすべき責任である」という認識のもと、積極的に情報を開示しています。

2000年から毎年、報告書を発行して CSR活動に関する情報を開示しています

環境保全活動をはじめ、伊藤ハムグループのCSR活動をご理解いただくために、2000年から毎年、CSR報告書を発行※しています。環境負荷の低減を考慮して2012年に冊子を廃止し、ホームページで情報を開示しています。

また、「伊藤ハムグループ2016年CSR報告書」のホームページに専用フォームを設け、CSR報告書に関するご意見、ご感想などを投稿いただけるようにしています。

※2000年はエコレポート、2001年～2004年は環境報告書、2005年～2007年は社会・環境報告書、2008年よりCSR報告書として発行



「伊藤ハムグループ2016年CSR報告書」の
ホームページ



本報告書についてのお問い合わせ先

伊藤ハム株式会社
CSR本部コンプライアンス推進室

〒663-8586 兵庫県西宮市高畑町4番27号

T E L : (0798)65-5286

F A X : (0798)66-3391

U R L : <http://www.itoham.co.jp>

E-mail : eco@itoham.co.jp

発行 2016年9月